



2月16日 大竹国際交流協会、エスポワールおおたけで、「国際交流の夕べ」を開催し、150人が参加しました。会場では、獅子頭や手描きこいのぼりなどの展示やお茶席などがあり、多くの外国の方が日本文化に触れました。また、ステージでは、アメリカや韓国の民謡の合唱や日本や韓国の伝統的な楽器の演奏などがあり、会場は大いに盛り上がりました。



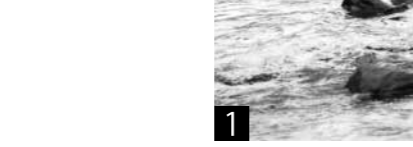
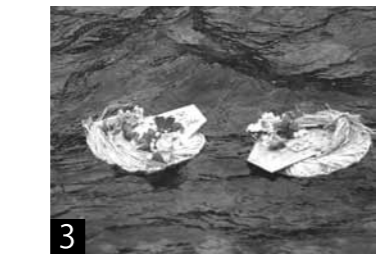
2月28日 広島を元気に！「顔出しんさい広島」を合言葉に、県内各地に顔出しパネルが設置されました。各地にゆかりの題材をもとに漫画家やイラストレーターが描いたものです。晴海臨海公園の管理棟横に設置されたのは、工場夜景をバックにした、永井さんの人気漫画「マジンガーZ」。ロボットアニメの先駆け的な作品です。顔出し写真を撮影して、SNSなどに投稿してみたいかがでしょう。



3月3日 住宅密集地域で建物火災が発生、広範囲への延焼拡大を想定した春季消防団出動訓練が小方学園周辺で行われました。訓練は、三ツ石川からくみ上げた水を各消防団がポンプで中継し、大量に放水するもの。岩国・大竹地区特別防災区域協議会を代表して俵ダイセルの大型化学高所放水車も参加。消防団第8分団(阿多田地区)のポンプ車から中継送水を受け、高さ27メートルの高所から大量放水を実施しました。



3月6日 卒業を控えた玖波中3年生6人が、NPO法人ハローの仲間と協力し、玖波6丁目集会所前のバス停の修繕をしました。バス停が傷んでいるという地域の声に応えたものです。初めて使う電動工具などを使い、ベンチの板の張り替えなどをしました。ビス止めをした石山翔央真くんは「きれいにするのは気持ちいい。バス停を使う人たちのためになれば」と話していました。



①手づくりのお内裏さまを乗せた棧俵。そっと流します。②健やかな成長を「流しびな」に託します。③2つ並んでゆるやかに流れます。④何をお願いしたのかな？



旧小学校に集まった子どもたちが、人形の顔を描き、着物を着せては、折敷に貼り付けていきます。正木颯人くん(小方小1年)、友埜くん(5歳)の兄弟は、「人形に烏帽子をつけるのが難しかった」と言いながらも出来栄に満足そう。

ウグイスの声も聞こえる河原に出た10数人が、作ったばかりのひな人形に、色とりどりの花を添えて流します。せせらぎに棧俵をそっと置く川音に乗ってゆらゆらと流れて行きます。子どもたちは、人形を見送りながら手を合わせ、願いを託していました。



⑤「家族や友達が幸せになるように」と願いを込めた川野琴さん(小方小4年)⑥人形の烏帽子を付けます。⑦完成した「流しびな」を手に正木颯人くん、友埜くん兄弟。



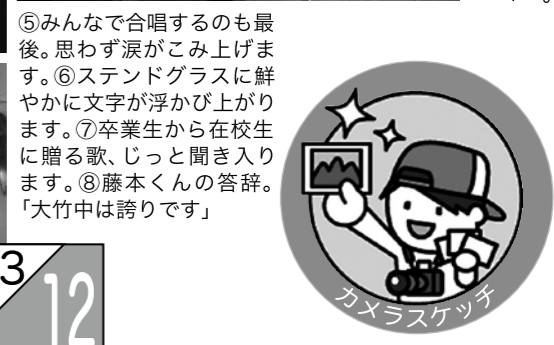
川音に乗せて、ひな流し

小瀬川 穂仁原

そは降る雨の中、旧穂仁原小学校前の河原で、早春の風物詩『ひな流し』が行われました。これは青少年育成市民会議が40年以上続けている行事です。



③壇上の友達のをじっと見守ります。④晴れの舞台、感激の涙かな。



①卒業証書は3年間頑張った証しです。②「おめでと〜」と校長が声をかけ、卒業証書を手渡します。

⑤みんなで合唱するのも最後。思わず涙がこみ上げます。⑥スタンドグラスに鮮やかに文字が浮かび上がります。⑦卒業生から在校生に贈る歌、じっと聞き入ります。⑧藤本くんの答辞。「大竹中は誇りです」



涙と笑顔で、巣立ちのとき

大竹中学校

「祝卒業大竹中」。スタンドグラスに書かれた文字が、光の中に浮かぶ体育館。教職員、在校生、保護者、地域の人たちに見送られ、105人の卒業生が思い出深い学びやを巣立っていきました。

卒業証書を手渡した小田校長は、朝の連続テレビ小説『まんぶく』の主人公が、即席ラーメンづくりに挑む物語を引用し、「夢の実現のため、果敢に挑戦してください」とエールを送ります。卒業生代表の藤本遼史くんは、「助け合い競い合った3年間は、私たちの宝物です」と振り返り、「よりよい学校にしてください」と在校生に思いを託しました。

式を終えた校庭は、見送りの後輩や同級生とメッセージを交換したり、写真を撮ったりする姿などがあり、いつまでもなごり惜しそうな光景でした。

※ (FB)の文字があるものは、市の公式フェイスブックにも掲載しています。



⑨卒業アルバムのクラス写真を開いてニコリ。⑩先生から一人ずつ花束が渡されました。⑪希望に満ちて飛んでいます。⑫思い出の1枚になるのかな。